

8農家ブランド認証

埼玉県 安全・安心お墨付き 久喜市

【埼玉】久喜市が今年度からスタートさせた、農産物の消費拡大とイメージ向上、ブランドの確立を目指す「久喜市ブランド農産物認証制度」の初の認証式が25日、久喜市役所で行われた。認証農家8人が出席し、梅田修一市長から認証書を受け取った。



久喜市ブランド農産物認証制度は、市内で栽培された農産物の付加価値を高め、販路の拡大を目的に今年2月に制定した。より安全な食品を食べたいという消費者ニーズに対応し、農薬や化学肥料の使用を通常の半分以下に抑えて栽培した環境に優しい農産物。認証されたブランド農産物には、認証シールを貼付することができ、JA南彩農産物直売所「久喜キラ

久喜市ブランド農産物に認証された農家と梅田市長（前列中央）（25日、埼玉県久喜市で）

リ直売館」などで購入できる。

今回の認証品目は、タマネギ、ジャガイモ、カボチャ、キャベツで、杉田好子さん、石塚藤枝さん、長谷川喜美江さん、中山正雄さん、柿沼喜久江さん、小林孝さん、鈴木利和さん、加藤元一さんが認証を受けた。

「認証制度によって安全・安心のために生産者が栽培した農産物が、より多くの消費者に理解を得られ、購入のきっかけになることを期待する」とあいさつ。認証を受けた杉田さんは「農産物に理解を示してもらい、感謝したい」、長谷川さんは「特別栽培に取り組んで20年になるが、続けてきてよかった」と話した。

市は、環境負荷が少ない持続可能な農業の普及を通じて地域の農業を振興するため、今後も市内で栽培されている特別栽培農産物を久喜市ブランド農産物として認証していく考えだ。

緑地帯

先日、千葉で稲刈りをする男性と話をした際、旅先で安く泊まれるユースホステルの話で盛り上がった。一つの部屋に2段ベッドが所狭しと並び、国内外からさまざまな年代の人々が集い、夜な夜な旅行談議に花を咲かせたことなどを語り合った。

ユースホ

きょう26日はユースホステルの日だ。ドイツの学校教師だった。悪天登れず、スホステル創設を思い立つきっかけとなった出来事に遭遇した。スホステルは20代半ばから50代半ばまで、悪天登れず、スホステル創設を思い立つきっかけとなった出来事に遭遇した。スホステルは20代半ばから50代半ばまで、悪天登れず、スホステル創設を思い立つきっかけとなった出来事に遭遇した。

天彦進事皆へ梨ハブドウ



JA東京みらい きょうまでイベント

【東京みらい】JA東京みらい東久留米支店は24日、東久留米市幸町から八幡町に移転し、新たにオープンした。初日はオープニングセレモニーや記念品の贈呈を行い、700人を超える来店客でにぎわった。列をつくる来店客に急ぎよ茶を配り、熱中症対策を講じた。



農業大学が開野菜収穫祭。JA東京むらさしし。京むさし国分寺支店月中旬、国分寺市農業大学を同市内に